

先日3月3日に、3ヶ月に1回の外来診察に行った。

40年間も通院しているので診察は言っただけで簡単である。

冒頭に必ずなにか変わったことはありませんか？と聞かれる。

現在、能登半島地震で断水している地区が多い。飲料水は給水車でどうにか間に合っているが、大量に必要な生活用水は全く間に合っていないので住民は困っている。

地滑りや土砂崩れで川の水は茶色に濁っているが、その水をポンプで汲み上げて、清水を作る移動式の機械を開発中です。

4月上旬に発表会をやる予定です・・・と答えたら、40歳くらいの若い医師の顔色が変わった。

すぐ入院してください。貴方は強度の「そう状態」になっている！自分でも、しまった余計なことを言わなければよかった・・・と思ったが手遅れだ。

自分は冷静です。先生の判断が間違っています！反論すればするほど逆効果である。

すったもんだする内に、連絡を受けた教授が診察室に入って来た。詳しく説明する。昨年5月5日に発生した珠洲地震（震度6強）で断水して、住民は苦勞を強いられた。

移動式の浄水装置が必要なことや、ウエルマンが15年前に開発した濁水処理機を改良すれば可能になる・・・等の説明をしたら教授は笑っていた。

貴方の発送は素晴らしい！ぜひ成功させてください。担当の医師は若くて、まだ経験不足で貴方の言うことが理解出来ないで「そう状態」と判断してしまった。大変失礼しましたといっていた。もし、教授が不在だったら危うく強制入院させられるところだった。

各々方、精神科の診察は怖いぞ！！